

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O171401151		
法人名	有限会社 ウジャト		
事業所名	グループホーム のぞみ 1F		
所在地	北海道函館市亀田港町60番28号		
自己評価作成日	平成27年11月1日	評価結果市町村受理日	平成27年12月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0171401151-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ここ数年力を入れ取り組んできました個別支援について、今年も利用者様の思いを聞き取り、実行に向け取り組んで参りました。自宅でご家族と過ごす、お寺参りに出掛ける、他の施設に入所されている妹様に会いに行く、丸井に買い物に行く、海を眺めながらおにぎりを食べたい、など、思いは様々あり、それらに付き添うスタッフも普段と違った利用者様の表情を見て日々やりがいを感じております。また、今年は初の試みで、夏祭りを開催しました。日頃地域の方々との交流に苦慮しておりますが、当日は近隣の方々も沢山参加して下さい、大変賑やかなお祭りとなりました。近所の高齢者施設の方々との交流も続いており、お互いの施設での行事には声を掛け合うなどし交流を深めております。ホームで飼っている猫も5匹に増え、日々利用者様の癒しとなっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北海道大学水産学部の裏手にある国道5号線を横断して200m程入った閑静な住宅街に位置している「グループホームのぞみ」は、系列のグループホームのぞみ2号館と隣接しており、運営推進会議や夏祭りなどの行事は合同で開催している。開設当初よりアニマルセラピーを取り入れているのが特徴の事業所で、利用者は猫と触れ合いながらストレスの軽減と精神的気晴らしに繋げている。運営者は協力医療機関に従事しており、月2回の訪問診療と訪問看護を導入している。夜間対応や看取り介護計画に家族の支援も視野に入れてチーム一丸となって取り組み、家族に安心感を与えている。管理者と職員は個別ケアの原則に基づき、日常的に実践に活かした支援に取り組んでいる。介護全般にわたり意識の深さが感じられる事業所で、利用者は尊厳を守られながら安心と安全な暮らしを確保している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関の入り口やリビングに掲示し、個々で確認しながら実現に向けて取り組むよう心掛けている。又、毎月ユニット理念(目標)を掲げ、事業所理念と合わせて職員が意識を統一ケアに望めるよう取り組んでいる。	管理者と職員は地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を共有し、事業所内に提示すると共に、職員が自主的に掲げたユニット理念を目標に、日々、サービスの提供に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の夏祭りや新年会に参加させて頂いたり、ホームで開催される夏まつりなどに近所の方々や近隣の高齢者施設などに参加して頂くなど、交流の機会を作っている。	町内会行事には利用者と一緒に参加し、事業所の夏祭りには、地域の方々が参加している。定期的に折り紙講師がボランティアに訪れ、近所の方が建物の周りにお花を植えてくれるなど、日常的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームで行なわれるのぞみ夏まつりに参加して頂いたり、町内会で行われる夏祭りや新年会に参加させて頂くことで認知症の方への理解を得られているように思われる。又、外出の機会を多く持つことで、地域の方々とのふれあいを通し認知症というものを知って頂く機会を持っているのではと思います。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに行なわれる運営推進会議では、町内会長様や地域包括支援センター様にも参加して頂き、意見やアドバイスを頂き、サービス向上に活かせるよう職員全体で取り組んでいる。ご家族の参加が少ないのが課題である。	年6回、併設の事業所と合同で開催している。包括支援センター、町内会からも参加があり、運営状況、行事報告等のほか、参加者と意見交換が行われサービスの向上に繋げている。	会議録は全家族に配布している。高齢化や共働きなどの理由で家族の参加が減少にあるが、継続して家族の出席を促すことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで市の担当者に事業所の取り組みなどを報告し、アドバイスを頂きながら取り組んでいる。	市担当者とは、事故報告書、介護保険更新時などで訪問している。ケースワーカーが定期的に来訪して情報交換をする機会があり、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束などの禁止行為を正しく理解できるよう定期的に会議などで話し、又、研修などの機会があれば参加し、職員全体へ報告を行い、全体での理解に努めている。夜間は安全面を考慮し、ご家族からの了承を得て、夜8時以降は施錠をしている。	マニュアルを整備している。3か月ごとに拘束廃止委員会が内部研修会を開催して職員に伝えたり、外部研修会に参加した職員が伝達講習をするなど、拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	毎月行なわれているユニット会議で身体拘束について話し合い、合わせて虐待にあたる行為はないか再確認を行っている。又、3ヶ月ごとに、「身体拘束廃止委員会」を開催しユニット間で情報交換を行い身体拘束にあたる行為について意見交換を行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度に関する研修は介護支援専門員の研修など個別の受講となっており、フィードバック研修などで他の職員への報告を兼ね研修を行っていかなくてはならないが、現状ではまだできていない。また、現在においては制度を活用される方がいない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、ご本人や家族にホーム内を見学して頂き、理解、納得をして頂けるよう説明をし、契約時には利用料、医療連携体制、入居にあたっての留意事項など、契約書や重要事項説明書に基づき説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には入居者様の様子を報告すると共に、ご家族の要望や意見を話して頂けるような機会をつくり、頂いた意見などはその後ユニット会議などの議題として上げ、改善すべき点があれば速やかに対応できるよう体制をとっている。又、玄関フロア入り口には意見箱を設置している。	家族は近辺に住んでいる方が多いので、通りすがりや、買い物時に気軽に立ち寄り、些細なことでも話し合える関係を築いている。ユニットごとの家族連絡帳の記録や会話などから表出された課題は、ユニット会議で全職員と話し合い、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常やユニット会議で意見や提案を聞き、施設長や社長も出席する管理者会議にて提案している。	職員の意見や提案はユニットごとに話し合い、定期的開催する管理者会議で検討し、より良い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長が定期的な職員とのコミュニケーションにて状況を把握し、代表者に報告している。また、希望する研修などに行けるよう配慮し各職員が意欲的に働く事ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修ファイルを作り、常に研修の実施など職員全体で共有し自らの希望や代表者や管理者の指示にて研修を受ける機会を作り一人一人の技術、知識の向上に努めている。研修後は発表できる場を作り情報を共有できるようにしている。また、ユニット会議でその時の状況に合わせた勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などに参加することで同業者との交流する機会がある。他事業所の運営推進会議、勉強会へも参加させて頂くことがある。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を行い本人やご家族に直接会って話を聞かせてもらい、施設の概要などを説明し、どのように暮らしたいかを伺い要望などには応えられる範囲を説明し、不安な事や疑問点については納得できるまで説明を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際に、アセスメントと一緒に、ご家族の要望や心配事を聞かせてもらい、一緒に考えていく事で信頼関係を築く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	予約を頂く時点で、お話しを伺い、緊急性等の見極めや、待機期間に、どのようなサービスを活用しているか説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で、一緒に家事作業等を行い、ご本人が出来る事は積極的に行えるような関わりをし、得意な事などは教えて頂いたり、持ちつ持たれつ関係を築けるよう努力している。又、何かをして頂いた時には、感謝の言葉を忘れずに伝えるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、毎月のお手紙で近況報告行い、何かあった時は、都度電話連絡をし、問題があれば、ご家族と一緒に考えていける体制を取っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は、いつでも出来る体制で、ご本人が行きたい場所(買い物、外食、温泉、自宅)には、個別に支援している。	「昔住んでいた町に行ってみよう」と会話の中で聞き取り八雲町を訪れたり、他施設で生活をしているお姉さんを心配していると電話を取り継いだり、元の家菜園仲間が集まり利用者と共に事業所の畑を手伝ってくれるなど、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さまで行える、レクリエーションや、他ユニットとの交流の場を作ったり、お互いに出来る事を行う事で支え合って生活しています。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了自は、ほぼ亡くなった時ではあるが、その後ボランティア(折り紙教室)で来て下さるご家族もいらつしやる。また、長期入院の為、契約終了となった時は、お見舞いに行ったり本人の経過を聞いたりし、ご家族との関係を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、コミュニケーションを取り、本人の意向を把握できるように努めています。ご家族からの情報も含め職員間で検討しています。	職員は利用者の表情や動作から訴えを理解し、大きい風呂に入りたいと話すと温泉行きを実行するなど、一人ひとりの思いを大切に個別支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際、ご家族への聞き取りや、本人からの昔話を通して情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、入居者様の状態観察をし、アセスメントを行い、自立への支援に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者及び職員は、入居者様が、日々より良い暮らしをして頂く為に、ご本人やご家族の希望収集に努めています。又、主治医からの指示等も反映した計画ができるよう、月末に行うユニット会議で職員全体で話し合いを行いながら作成しています。	本人・家族からの要望とかかりつけ医の意見を反映し、日々のケアの記録を基に担当者会議で検討し、モニタリングを繰り返しながらセンター方式で現状に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、介護計画に活かす事ができるよう、各職員が、連絡・受診・家族・リスクの各ノートに具体的な内容を記入し共有しています。又、会議等では、それらをもとに検討し、介護計画に活かせるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の団欒やコミュニケーションの中から、入居者様の希望を聞き出すと共に、ご家族との連絡も密に行い、どうすれば対応できるかを職員間で検討し実行に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会等の季節行事に参加したり、買い物に行ったり、施設にて定期的に消防士立会いのもと、避難訓練を行い、地域の方にも参加して頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時にかかりつけ医を確認し、協力医療機関等の説明(月1回の内科受診や、2週間ごとの皮膚科往診)を行っています。又、利用契約前のかかりつけ医を希望の場合は継続受診ができるよう支援しています。	契約時に従来のかかりつけ医の受診が可能であることを家族に伝えている。協力医による月1回の往診と週1回の訪問看護師による健康管理が行われ、夜間体制も整えている。	

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回、協力病院から看護師が訪問し血圧測定、採血などの健康管理を行っており、その際に入居者様の状態等を伝えアドバイスや受診の指示などを頂いている。又、入居者様の状態に応じた医療機関への受診の支援も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が決まった際には職員が生活、身体、精神状況を病院側に伝えている。又、定期的に面会に行き病院関係者より入居者様の状態などを確認し、早期退院へ向けた相談などをご家族も含め行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「グループホームのぞみ 看取り介護に関する方針」を作成し入居時に説明を行っており、入居時点での御家族の考えなどを聞かせていただいています。又、実際の終末期を迎えられた方への支援として、御家族へ再度看取り介護についての説明と同意をいただき、「看取り介護計画」を作成しチーム全体で最後まで安心して充実した日々を送っていただけるよう支援させていただいています。	チーム全体で作成した「看取り介護に関する方針」を入居時に家族に説明し、同意を得ている。利用者がその時期を迎えられると、かかりつけ医の指示と全職員で協力体制を整え、「看取り介護計画」で家族の意向を確認し、一緒に過ごすために居室を提供するなど、家族の支援にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し全職員への周知を徹底している。AEDの設置(2号館)も行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については消防立ち合いのもと定期的に避難訓練を行っていますが、地震、水害等に対する訓練は近年では行っていないが、災害や火災時の緊急連絡体制は整え、マニュアルと合わせ日頃からそれらを意識できるよう事務所、リビングと目につくところへ掲示している。	年2回、日中と夜間想定訓練を実施している。終了後、消防署員による講話があり、反省や改善に取り組んでいる。防火管理者による毎日の安全確認と、毎月1回外部事業者による点検を実施し、備蓄もしている。	予め訓練の実施と協力依頼を、家族やご近所に伝えているが、参加者の減少に苦慮している。今後、地域住民と連携を図り、職員だけの誘導の限界を話し、支援体制を整えることを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が入居者様ひとりひとりのこれまでの生活や思いを尊重し、常に私達の人生の先輩であるという思いを忘れずに日々支援させていただいております。	職員は利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉使いを職員間で確認し合ったり、接遇について施設長が指導し、日々のケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりの心身の状態、想いの把握に努め、やりたい事、希望を話せるよう環境作りを心掛けている。又、訴える事が困難な方には日々の関わりの中から想いを汲み取れるよう努力し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活のペースを把握できるよう日々の関わりを大切にしている。また、入所前の生活スタイル、自宅での生活の様子をご家族に伺い、その人にあった生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理美容などの対応を行っている。又、行事等の際は女性入居者への化粧などの支援も行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	医療面で食事制限のある方には、本人に説明を行い、納得していただけるよう努めている。また、入居者の出来る事を考慮しながら一緒に食事準備や調理を行い、利用者・スタッフが一緒に食卓を囲み、楽しく食事をしていただけるよう努めている。	利用者の意見を取り入れたメニューにしたり、育てた野菜を食材にして職員と一緒に同じ食卓で会話を楽しみながら、ゆっくり食事できるよう雰囲気づくりも大切に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や間食、一日の水分量の把握に努めている。食事内容に関しては献立係りを配置し、栄養のバランスや季節の物を取り入れ日々のメニューを作成している。また入居者一人ひとりの希望を聞き取り、献立に取り入れている。食事、水分量の減少や体重の増減が見られる際は、御家族や医師に相談しながら入居者の状態に合わせ、おかゆ、刻み、ミキサー食等の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、定期的な義歯の洗浄にて清潔保持に努めている。また口腔内の異変時には歯科往診に来て頂くなどの支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表等を作成し個々の排泄状態の把握を行っている。状態に合わせた誘導や、時間帯での声掛けを行い、トイレにて気持ちよく排泄していただけるよう介護計画を作成している。また、失敗時には本人の自尊心を傷つける事のないよう考慮しながら清潔保持に努めている。	職員は、ユニット会議でおむつ使用による弊害を認識し、排泄パターンを把握して声かけや誘導に努め、利用者の自尊心を傷つけることのないよう自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便確認、毎日の体操、個人に合わせて牛乳や野菜、果物、食物繊維の食べ物等排便を促しやすい飲食物を摂っていただいている。又、便秘がひどい方にはかかりつけ医へ相談し便秘薬などの対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後が入浴の時間になっているが、入浴日については利用者様の希望なども確認し、心地よく入浴して頂けるように支援している。又、利用者の体調に合わせ、無理せず入浴して頂いている。	希望があればいつでも入浴できるよう体制は整えているが、一日2名の利用者がゆっくりと、心地よく入浴できるよう心がけ、利用者の要望で温泉に同行するなど、個々に合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人や家族から生活習慣(就寝、起床時間や昼寝)を教えて頂き、個々の睡眠時間は職員全体で把握し、不眠の場合はその状況に応じて話しを傾聴し安眠できるような促しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人の「与薬一覧表」を作成し、効能、副作用などの把握に努めている。服薬の際にはスタッフ同士が声を掛け合い誤薬のないよう都度確認を行っている。また、薬の管理も利用者様の手が及ばない場所へ保管し、内服薬の、紛失、誤薬がないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から、それぞれ得意なこと・出来そうなことを観察し、個々の状態に合わせた家事作業やレクリエーションを行って頂いている。また、年間行事予定を作成し季節に応じた行事を企画し、ご家族にも参加をして頂いている。又、スタッフとの買い物や、外出、町内会の催し物への参加、散歩に行ったりと活気のある生活を送って頂けるよう支援を行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望時(買い物、散歩、外食)には出来るだけ希望に沿えるよう職員間で連携し支援を行っている。どうしても希望時に外出できない時は、本人にその旨を説明し、外出の日を決めて理解、納得して頂けるよう心掛けている。	事業所周辺の散策や、歩行困難な時には芝生の上での外気浴などを天気の良い日に実行している。近くの北海道大学水産学部の構内にある小公園での桜の花見や、函館牛乳と秋の大沼までの遠出など、計画を立てて外出をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人から希望がある場合はご家族と相談の上、お金を所持して頂いている。買い物の際には、商品の選択やレジでの支払いなどの見守りと一部支援を行いながら、できるだけ本人に行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には、取次の支援や見守りを行いながら、いつでも自由に電話を使用して頂けるよう支援を行っている。手紙に関しては現在のところ郵送の希望者はいないが、ホームに届いた年賀状などは希望があれば本人に読んで聞かせるなどの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や光の入り方、空調での室温管理など利用者の意見を取り入れ自由に調節できるように配慮している。また、家庭菜園の水やりや草取り、収穫を一緒に行ったり、リビングの設えに季節を感じて頂けるような工夫をしている。	事業者内は行事や外出時の写真があり、季節に合わせて模様替えをし、居間のソファの配置や対面式の台所は家庭的な雰囲気を醸し出し、採光や風通しもよく明るくて安心感が持てるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの構造上、一人になれる空間はなく、各居室やリビングにある座敷、又は事務所にて過ごして頂いている。また、食卓での座席や、リビングソファで過ごして頂く際には、利用者同士の相性も考慮し安心して頂けるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者やご家族と相談しながら、安心してお部屋を使用して頂くためにも、在宅時に使用していた家具や写真などを持ってきて頂き、居心地の良い空間をつくれるように工夫して取り組んでいる。また、入居後は本人の希望を取り入れながら、お花を飾ったり、ご家族の写真を飾ったりなど、個々の好みに対応させて頂いている。	在宅当時に使用していた家具や写真がある居室は、家族と相談しながら、心地よく過ごせるように配慮され、生活感に溢れている部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の生活空間の随所に手すりを設置し、浴室内の床は滑りにくい材質の物を使用したり、階段にも滑り止めを設置している。各居室の前に表札などの目印を設置したり、トイレの前には表示を大きく、見やすくするよう自立支援にむけた工夫をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O171401151		
法人名	有限会社 ウジヤト		
事業所名	グループホーム のぞみ 2F		
所在地	北海道函館市亀田港町60番28号		
自己評価作成日	平成27年11月1日	評価結果市町村受理日	平成27年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ここ数年力を入れ取り組んできました個別支援について、今年も利用者様の思いを聞き取り、実行に向け取り組んで参りました。自宅でご家族と過ごす、お寺参りに出掛ける、他の施設に入所されている妹様に会いに行く、丸井に買い物に行く、海を眺めながらおにぎりを食べたい、など、思いは様々あり、それらに付き添うスタッフも普段と違った利用者様の表情を見て日々やりがいを感じております。また、今年は初の試みで、夏祭りを開催しました。日頃地域の方々との交流に苦慮しておりますが、当日は近隣の方々も沢山参加して下さい、大変賑やかなお祭りとなりました。近所の高齢者施設の方々との交流も続いており、お互いの施設での行事には声を掛け合うなどし交流を深めております。ホームで飼っている猫も5匹に増え、日々利用者様の癒しとなっております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0171401151-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年11月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関の入り口やリビング、事務所に個々で確認しながら実現に向けて取り組むように心掛けている。またユニット目標を毎月作成し、事業所の理念と合わせて職員が意識を統一ケアに望めるように取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の新年会、夏まつりに参加させていただいたり、今年初めて行ったのぞみ夏祭りで近隣の方も参加してくださり交流の場づくりを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出や、散歩などの機会を多く持つようにしており、近隣の方と関わる機会を作っている。認知症の方とふれあっていくことにより少しでも知っていただいているのではないかと思います。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に行われている運営推進会議では、町内会長様、包括支援センター様に参加していただき意見やアドバイス、相談など行いサービスの向上に活かせるように職員全体で取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者が参加した時は、事業所の取り組みなど報告し、相談や確認、アドバイスをいただきながら降り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会による会議を定期的に行い身体拘束などの禁止行為を正しくいかできるように話し合っている。夜間は御家族へ了承を得て、安全面も考え夜8時以降は施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月毎に身体拘束廃止委員会を開催しユニット間で情報を交換を行い身体拘束が起こっていないか、起こりそうでないか、確認している。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護支援専門員の更新研修などで制度について勉強する機会がある。現在においては制度を活用される方がいない状況である。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用料、医療連携体制、入居にあつての留意事項など契約書や重要事項説明書に基づき説明を行っている。又入居前にはホーム内を見学していただき理解、納得していただけるように説明を行っている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談ごとがあれば、管理者や施設長へ御家族様が話してくださっている。相談内容によっては包括支援センターと連携し行っている。玄関に意見箱を設置行っている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常やユニット会議で職員の意見や提案を聞く機会を設け、施設長や社長が参加する管理者会議にて提案している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションの中で状況を把握し代表者に報告している。また、希望する研修など参加できるときは行けるように配慮し各職員が意欲的に働くことができるように努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の実施など職員全体で共有し自らの希望や代表者や管理者の指示にて研修を受ける機会を作り一人一人の技術、知識向上に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などに参加することで同業者との交流する機会がある。他事業所の運営推進会議、勉強会へも参加させていただくことある。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、御本人様の好みや習慣・人柄などをご家族様や御本人様に直接会い話を聞かせてもらっている。また、施設の概要などを説明し、どのようにホームで暮らしていきたいか、これはしてほしいなどの要望がないか伺い、要望に応えることができるように努力している。不安なことやわからないことがあれば納得していただけるよう説明を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にアセスメントと合わせご家族の不安や要望心配事など聞かせていただき一緒に考えていくことで信頼関係を築いていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	予約されている時点でご家族にお話しを聞き、緊急性・重要性など見極めや待機の間どのようなサービスを活用することができるか説明を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でご本人様ができる家事作業を行い得意な事は教えていただいたり、手伝って頂いた時には、感謝の言葉を直接伝えるなど共同生活において持ちつ持たれつ関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月の手紙などで状況報告を行い、受診などがあつた際は、電話連絡を行っている。また、家族の要望や問題があつた際は一緒に考えていける体制をとれるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出はいつでもできる体制をとっており、ご本人様が行きたい場所(買い物や家族と出かけなど)は個別に支援を行っている。また外泊希望される入居者様は、車で送迎できるような体制をとっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様が楽しめるようなレクリエーションを考え提供し、入居者様同士仲良く会話できるような雰囲気作りができるよう努めている。またレクリエーション以外でも関係を持てるようにスタッフが介入し支援するよう努めている。座席なども入居者様の交友関係を把握しトラブルが起きないように努めている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は、殆どが亡くなった時であり、その後、ご家族が会いに来られるかたもおり、御家族との関係を大切にしている。また折り紙教室を現在でも開催してくれているご家族もおります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族に協力をお願いし、情報収集しながら、馴染みの暮らしを継続出来るよう取り組んでいる。日々のコミュニケーションの中でご本人様の希望・要望を聞きスタッフ間で話しあっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、御家族より教えて頂くと共に職員全員で日々の利用者の観察を行ない、1日の過ごし方、心身の状況、有する力の把握に努め、本人の負担にならないかを常に確認しながら家事手伝い等出来ることを行なって頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のユニット会議でプランの確認をしている。プラン更新では、アセスメントの原案を各担当スタッフが作成し計画作成担当者と協力し行なっている。御家族の来所時に近況報告、相談などを行ない、それを踏まえ作成している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のユニット会議でプランの確認をしている。プラン更新では、アセスメントの原案を各担当スタッフが作成し計画作成担当者と協力し行なっている。また、ユニット会議の中で職員全体で話し合い意見を出し合い作成している。御家族来所時に近況報告や相談を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを活用し24時間の記録を行なっている。入居者様の受診状況などはノートを活用し職員間で情報を共有し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活から本人の希望・要望を聞き出すと共に、御家族へ状況を説明し、意見要望を取り入れ、職員間の連絡を密にし柔軟な対応を行えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺地域にホームの情報を伝え、理解を広げるよう働きかけを行なっている。又、定期的に消防士立会いのもと避難訓練を行なっており、その際は近隣、町内会の方にも協力をお願いしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、御家族の希望する医療機関や入居前よりのかかりつけ医の受診を行なっている。特に希望が無い場合は協力医療機関での受診を行なっている。また協力医療機関による月1回の訪問診療体制、24時間の医療連携体制を確保している。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回協力病院より看護師2名が訪問し、血圧、バイタル測定、採血などの健康管理を行い、その都度入居者様の健康状態などを伝え、アドバイス、受診の指示をいただいている。また、入居者様の状態に応じ、医療機関等への受診の支援も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が付き添い、本人のホームでの状態等の情報を医療機関に提供している。入院中には定期的な訪問を行ない、本人の不安な気持ちを軽減できるように努めている。早期退院できるよう、御家族、医療機関と情報交換を密に行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「グループホームのぞみ看取りに介護に関する方針」を作成しており、入居時点での御家族の考えなどを聞かせていただき入居時に説明を行っております。また、実際に終末期を迎えられた入居者様の支援を行う際は再度看取り介護に関しての説明を行いご家族への同意をいただいております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを作成し、全職員に周知している。また外部研修会の参加やユニット会議等の場で勉強会を実施し職員の知識向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害や火災時の緊急連絡体制を整え、マニュアルと合わせ日ごろからそれらを意識できるように目の届くところに掲示し定期的に消防の方に参加していただいている。町内会、近所へも参加の案内を行っている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の性格や状態を把握し個々を尊重した声かけ対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員間での情報交換を常に行いながら入居者様に選択していただけるように声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御家族や御本人様から生活状況をきいたり、普段のコミュニケーションのから本人の希望を感じ取りできるだけ希望に沿った生活を送っていただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔からどのような服装が好みだったか等確認し、衣類を買うときはご家族に相談している。化粧をする入居者様は、不足したものを一緒に買いに行ったりしている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昔からの食事習慣や嗜好味付け等の情報を把握し、美味しく食事を摂取して頂けるよう心がけている。また一緒に準備や調理を行ない食事が楽しみになるように支援している。利用者と職員と一緒に食卓にて食事を摂取している。月一回自由夕食があり、入居者様の食べたい物希望を取り、手作り餃子など一緒に調理し食事している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事量、水分量の確認を行っており、食事内容に関しては栄養バランスの取れた食事を提供し、個々の身体状況に合わせ、刻み、とろみ、お粥、小盛りなどで対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや定期的な義歯の洗浄をし清潔保持に努めている。また、変化があった際には歯科受診、往診にて対応している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況の把握を行ない、状態に合わせた誘導を行なっている。出来るだけトイレにて排泄して頂けるよう支援している。また排泄失敗の際は本人の自尊心を傷つけないよう配慮しながら清潔保持に努めている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便を確認を行ない便秘にならないよう運動や食物繊維、水分摂取等を心がけている。便秘があるようであれば、医師と相談し薬等で調整行なっている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に毎日午後が入浴の時間となっているが、利用者の希望に合わせて心地よく入浴して頂けるよう対応している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御家族、本人より過去・現在の生活習慣の情報提供をしていただくと共に日々のコミュニケーション、様子観察の中から要望を読み取り、その要望に沿った生活を送っていただけるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に与薬一覧表を作成し、都度確認を行なうと共に、服薬後も入居者様の症状の変化・様子の観察を行なっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や御家族から生活歴や得意な事、趣味を教えていただいたり、日常生活の中から考察し、各々の状態に合わせ役割作業を行なっていただいている。外出希望がある方には外出や町内会の出し物、散歩など気晴らしが出来るように支援している。			

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族と共に外出。町会の催しへの参加。スタッフとのドライブ。地元の観光地へ行ったりと本人の希望を汲み取り楽しんで頂けるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、小銭入れを持っている入居者様もあり、購入の訴えがあった時は本人が支払いが出来るよう見守りし購入するよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より電話の訴えがあった時は家族・親戚・知人に電話し、本人に会話をして頂いている。手紙も本人に書いていただき、自由に連絡が取れるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気、テレビの音量や日当たりなどを自由に調整出来るように配慮して、スタッフも目配り行ない調整行なう。居室、トイレなどを確認し掃除している。また入居者と貼り絵・絵画を作成し季節感のあるものを掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室が個室となっているため、独りになりたい時は個室へ戻られる。リビングにはソファや食卓、座敷とあり入居者様が自由に座り会話出来るよう配置等に配慮してある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使うものは家族に持ってきていただき使用されている。以前より本人が使用していたものの為、自分の部屋だと認識ができ、落ち着いた生活が出来るよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、リビング、トイレ、浴室、階段に手すりを設置している。浴室には滑り止めを設置し、自立の方も介助の方も入れるようになっている。1階の特殊浴槽に入られる方もおり安全に入浴できるよう努めている。トイレは2種類あり大きなスペースのあるトイレには車椅子でも出入りしやすくなっている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム のぞみ

作成日：平成 27年 12月 20日

市町村受理日：平成 27年 12月 21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議へのご家族や地域の方の参加が少ない。	毎回ご家族や地域の方々に参加して頂く。	ご家族には毎月発送している家族便りでのお知らせと合わせ面会時などでも声掛けを行っていく。また、会議の内容などもわかりやすく伝えていくなどの配慮もしていく。地域の方々には書面でのお知らせと合わせ、特にご近所の方とは道などで挨拶を交わす場面も多く、その際にお話しをさせて頂く。	12ヶ月
2	35	災害時における近隣の方々との協力体制の不備。	近隣の方々参加のもと災害時想定避難訓練を行う。	避難経路や津波時の避難場所、職員の連絡網の再確認を行い職員全体で把握できるよう掲示する。災害想定避難訓練時には事前に近隣の方々へ書面にてお知らせすると共に、可能な限り訪問し避難誘導時の現状を伝え参加して頂けるよう声掛けしていく。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。